

Q:自衛隊のヘリの出動は3号機の消火活動のためなのか、使用済み燃料のプールのためか。

A:3号機の使用済み燃料プールに水を注ぐことができるかを確認するため。

Q:3号機白煙沸騰している可能性高い。まだ白煙上がっているのか。ヘリを飛ばしたがヘリの注水はやめるのか、あるいはやるのか。

A:断片的な情報かもしれないが、基本的には陸上からのやり方を考える。がれきを除去したり、相当強力なポンプで注水する必要がある。ヘリの選択肢もここでやめるわけではない。白煙が現在出ているかは確認する。

Q:4号機8×8のパネル2枚飛んだということだったが、裏から見ると壁が壊れていた原因は？

A:水素爆発と考える。

Q:水素爆発の原因は。

A:4号機の原子炉には燃料は入っておらず、すべて使用済み燃料プールに行っている。よって、使用済み燃料が原因。

Q:すると使用済み燃料プールの水が減って過熱しているということか。

A:水素が出ているとするとその可能性がある。

Q:線量増加の原因は2号機ではないということは間違いないのか。保安検査官4人のはずが2人、2Fにいて1Fに現在いない理由如何。

A:2号機と以前申し上げたが、現在それはわからないということなので、訂正する。

Q:福島第1発電所には7名保安検査官常駐させている。3/14まで福島第1の緊急活動センターで活動していた。福島県庁に本部が移動したので、移動している。現地勢は2Fにいて情報収集を行っている。

Q:3号機の燃料プール考えにくい、水素爆発あるなら燃料の露出も考えられる。要するに燃料は露出しているのかしていないのか。1号機、2号機の使用済み燃料プールについて言及がないが、プールはあるのか、あるとして屋根のない1号機で何らかの対応が必要なわけではないか。

A:3号機白煙あるので、上記燃料の上までかぶっているだろう、ただし沸騰して白煙上がっていると考え。1号、2号にも使用済みプールある。

Q:1号機、2号機のプールにも燃料入っているのか。

A:入っている

Q:詳細確認しているのか。

A:確認できていない。

Q:表にあるモニタリングポスト正門のデータに10:40のデータが入っていないがデータとして存在しているのか。

A:10:40のデータは常設のMPではなく移動車で取ったものなので表にはない。

Q:10:30と12:30に2回10ミリを超えたのか、正確な値は。

A:10mSV/hを超えたのはその2回、正確な値は手元にないので確認する。

Q: 水素爆発の理由は4号機の使用済み燃料プールの露出ということか。

A: そのとおり。

Q: 4号機ホウ酸投入と自衛隊がするという情報あったがどうなっているか。3号機自衛隊へリが撤退した時の炉の圧力は。

A: ホウ酸という方策も有効であり、検討の選択肢には入っているものと考え。値は確認する。

Q: 最優先課題は何か。屋の会見では、後で回答するという事だった。

A: 使用済み燃料プール 3号機と4号機の水位を確保するのが最優先事項。

Q: 1Fには供用プールもドライキャスクもあるがどうなっているか。

A: 1号機の裏側に供用プールある。水に入れず保管するドライキャスクもある。いずれも確認していない。

Q: これらの温度は上がっているか。

A: 把握していないが、保安院として把握しているべき。

Q: 2号機炉圧とサブプレッションチェンバーの圧どうなっているか。

A: 配布した紙のパラメーターには書いてあるが、SC(サブプレッションチェンバー)の値はDS(ダウンスケール)となっている。

Q: ダウンスケールということは、大気圧になったということか。

A: 目盛りが下に振りきれているのでそういうことだと思われる。

Q: 最優先課題について、使用済み燃料プールの水を満たすこととしているが、どれくらいの時間ですか。

A: はっきりしないが、数日で本当に困った事態に陥る。

Q: 困ったこととは。

A: ジルコニウムが破壊されて燃料が損傷すること。

Q: ヨウ素やセシウムの放出といったような壊れた証拠は出てきているか。

A: 出てきていない。

Q: 3号機写真を見ると建屋はばらばらになっているように見える。プールも見えないが破壊されているのではないか。

A: それはわからないが、構造上、プールの上には相当余裕があるので燃料が上に飛んでいくことはないのではないかと思います。

Q: 燃料棒がはじけ飛んでいるかもしれないのではないか。

A: そうであればモニタリング値に出てくるはず。

Q: 水位は分からないがモニタリング地から飛び散っているとは思えないということか。

A: そのとおり

Q: 白煙については、3つの仮定、様々な値から否定されているが、2号機の可能性失われていないのか。

A: 穴があいた可能性は否定できない。放射性物質の濃度からすると格納容器蒸気を逃がす

ときに通る道。格納容器に穴あいているとモニタリング値に影響あるはず。爆発して棄損した模様であると報告したが、モニタリング値に影響与える多くの放射線の漏えいには結びついていない可能性。

Q:燃料使用済みプールには温度計水位計無いのか。

A:あるが、電気系統が機能していないので現在計れない。

Q:白煙は3号機の使用済みプールが沸騰しているということか。

A:その可能性が高い。

Q:高い線量の原因については分からないということか。

A:そのとおり。

Q:3号機の格納容器については損傷ないということでしょうか。

A:一時そのような報告をしたが、そうであれば、モニタリング値もう少し変化あるはずで、棄損というほどのことはないと思う。

Q:4号機は水素爆発でしょうか。

A:水素爆発の可能性が高いと思う。

Q:3号機のサプレッションチェンバーのダウンスケールについて、2号機と同様の事象が生じてダウンスケールとなっているのか。

A:水位が本当にゼロとなっているのか故障しているのかわからない。一方でドライウェルは230という値が出ているので、ゼロということは論理上ありえない、よって水位計の故障かと推測する。

これまでの未回答の質問に回答する

- ・3号機の白煙17時時点では自衛隊ヘリが出ていると確認している。それ以降は確認できていない。
- ・10:40の10mSvの詳細な確認できていない。
- ・使用済みプールの異常確認しているか、東電が確認している。

Q:4号機使用済み燃料プール燃料棒露出していない一方で水素爆発起きているという認識だが、水素はどこから出ているのか。

A:ストーリーとして完全に理解できないのはわかる。水素ができるのは使用済み燃料の頭が出て、ジルコニウムと水が反応することで水素が発生する。ただ、頭が出ているとモニタリングの値に変化するはず。整合する理屈に到達していない。

Q:爆発は水素爆発以外ありえないということか。

A:水素爆発だと上が破壊されるが、4号機は下も壊れている。よって水素でない可能性もあるが、ほかに爆発の原因も考えられないので、水素爆発と考えた。

Q:米国NRCが来日したが意見交換したのか。

A:少なくとも私はしていない。先方のデータ取得が主目的。

Q:いずれは意見交換するのか。

A:そうなると思う。

Q:燃料棒が露出した場合、どれくらいの数字がでるものなのか。

A:値の高さもそうだが、高い値が長時間継続すること。

Q:数千というのが続くということか。

A:そういうことだと考える。

Q:モニタリングポストの値のみを見ているが、現在風は海側に吹いている。そのために値が低くなっているのではないか。

A:その可能性もある。しかし、10850レベルの放出が継続するようなら、もっといろんな現象が出てくる可能性が高い。現在は線量が下がる傾向にあるので、下がっているのは風向きだけの影響ではないと考える。

Q:作業員がどうなっているのか。明日の陸上からの注水は3号4号自衛隊警察誰がやるのか。上からか下からか、誰がどういう条件でやると判断するのか。

A:基本的に、現場の東京電力が、がれきを片づけ壊れた建物の壁面も考えながらやり方を決めていく。もちろん官邸の合同本部とは密接にやっていく。高性能の送水ポンプを使おうとすると、運転技量のある方も必要。そういった方々の組み合わせ、保安院もその一部として検討を進める。

Q:現場には何人いるのか。

A:昨日申し上げたとおり、100数十人いる。

Q:今もいるのか。

A:一時避難したが、だいたい同じ数いると思う。

Q:これまでデータが出てきていないと思うが、震災時からいままで何ベクレルの放射性物質が流出したのか、ヨウ素131がどれくらい出たのか。スリーマイルと比較してどれくらい出たのか算出しているのか。

A:現時点では評価していない。

Q:どれくらいで評価できるのか。

A:時間を要する。現時点ではわからない。

以上。

〔総理レク資料(17日17:00終)〕

赤字は異常事態 青字は対策

(3/17 16:30)

左

項目	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
①圧力容器(炉)	○16:36 非常用冷却装置注水不能	○20:20 海水注入開始				○海水注入継続中 *圧力容器内水位(12:25) A:-1,750mm B:-1,750mm *原子炉圧力(12:25) A:0.207MPag, B:0.171MPag (○除熱機能の回復に向け、外部電源の復旧に向けて作業中)	○海水注入継続中 *圧力容器内水位(11:30) A:-1,800mm B:-1,800mm *原子炉圧力(11:30) A:0.173MPag, B:0.144MPag (○除熱機能の回復に向け、外部電源の復旧に向けて準備中)
②格納容器		○14:30 ベント開始					
③使用済燃料プール						(○注水を検討)	(○注水を検討)
④建屋		○15:36 水素爆発による建屋損傷					

項目	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
①圧力容器(炉)	○16:36 非常用冷却装置注水不能			○13:25 原子炉冷却系機能喪失 ○16:34 海水注入開始		○海水注入継続中 *圧力容器内水位(12:25) A:-1,400mm *原子炉圧力(12:25) A:0.043MPag, B:0.061MPag (○除熱機能の回復に向け、外部電源の復旧に向けて作業中)	○海水注入継続中 *圧力容器内水位(11:30) A:-1,800mm *原子炉圧力(11:30) A:-0.029MPag, B:-0.047MPag (○除熱機能の回復に向け、外部電源の復旧に向けて準備中)
②格納容器				○0:00 ベント開始 ○6:10 確 圧力抑制薬付近で異常発生、同量圧力が低下		*格納容器内圧力(12:25) D/W:0.040MPaabs, S/C:D/S	*格納容器内圧力(11:30) D/W:0.115MPaabs, S/C:D/S
③使用済燃料プール						(○注水を検討)	(○注水を検討)
④建屋			○3号機爆発により壁の一部が開放	○8:25 白煙を確認			

項目	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
①圧力容器(炉)			○5:10 原子炉冷却系機能喪失 ○13:12 海水注入開始			○海水注入継続中 *圧力容器内水位(12:40) A:-1,800mm, B:-2,300mm *原子炉圧力(12:40) A:0.059MPag, B:0.055MPag (○除熱機能の回復に向け、外部電源の復旧に向けて作業中)	○海水注入継続中 *圧力容器内水位(11:10) A:-1,850mm, B:-2,300mm *原子炉圧力(11:10) A:0.014MPag, B:0.023MPag (○除熱機能の回復に向け、外部電源の復旧に向けて準備中)
②格納容器			○8:41 ベント開始			*格納容器内圧力(12:40) D/W:0.230MPaabs, S/C:D/S	*格納容器内圧力(08:45) D/W:0.200MPaabs, S/C:0.400MPaabs
③使用済燃料プール					○8:34、10:00 白煙が発生 ○ヘリコプター注水を断念し、機動降高注水準備中	○09:48へりによる水投下開始、10:01終了(計4投) ○機動降高による高圧注水準備中 ○夕方、自衛隊による高圧注水予定	
④建屋			○11:01 水素爆発による建屋損傷				

項目	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
①圧力容器(炉)	○停止中 ○燃料なし						(○除熱機能の回復に向け、外部電源の復旧に向けて準備中)
②格納容器	○格納容器内での冷却材漏洩なし						
③使用済燃料プール			○水温上昇(4:08 84℃)	○プール水量減少による燃料露出のおそれ ⇒注水の大臣命令	○プール水量減少による燃料露出のおそれ ○水温上昇(4:08 84℃)		○1:03 へり撮影画像によると、水がありそう ※米原子力規制委員会の見解は、大半水なし (○注水を検討)
④建屋				○9:38頃 火災発生 ⇒鎮火	○5:45 火災発生 ⇒7:26 自然鎮火		

項目	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
①圧力容器(炉)	○停止中 ○燃料あり。					*圧力容器内水位(14:00) +1,909mm *原子炉圧力(14:00) 1.700MPag *原子炉水温(14:00) 196.2℃ ○原子炉内の水温が高まりつつあるが、機能が維持されている。⇒除熱機能の回復に向けた作業開始	*圧力容器内水位(12:00) +1,870mm *原子炉圧力(12:00) 1.100MPag *原子炉水温(12:00) 179.0℃ ○除熱機能の回復に向け外部電源復旧及び仮設ポンプ作業中
②格納容器	○格納容器内での冷却材漏洩なし					*水温(14:00) 62.7℃ ○プールの水温は徐々に上昇しているが、直ちに問題が生じる状態とは考えられない。	*水温(12:00) 64.2℃ ○プールの水温は徐々に上昇しているが、直ちに問題が生じる状態とは考えられない。 ○除熱機能の回復に向け外部電源復旧及び仮設ポンプ作業中
③使用済燃料プール							
④建屋							

項目	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
①圧力容器(炉)	○停止中 ○燃料あり。					*圧力容器内水位(14:00) +2,432mm *原子炉圧力(14:00) 0.813MPag *原子炉水温(14:00) 150.0℃ ○原子炉内の水温が高まりつつあるが、機能が維持されている。⇒除熱機能の回復に向けた作業開始	*圧力容器内水位(12:00) +1,309mm *原子炉圧力(12:00) 0.740MPag *原子炉水温(12:00) 167.0℃ ○除熱機能の回復に向け外部電源復旧及び仮設ポンプ作業中
②格納容器	○格納容器内での冷却材漏洩なし					*水温(14:00) 60.0℃ ○プールの水温は徐々に上昇しているが、直ちに問題が生じる状態とは考えられない。	*水温(12:00) 62.5℃ ○プールの水温は徐々に上昇しているが、直ちに問題が生じる状態とは考えられない。 ○除熱機能の回復に向け外部電源復旧及び仮設ポンプ作業中
③使用済燃料プール							
④建屋							

経済産業省
 番号 172150

項目	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
使用済燃料							水位及び水温未確認(3号機注水作業の終了を待って、調査隊が原を開ける作業に着手する予定)。 ※地震発生直前の水温(30℃)を前提とした解析結果によると、清輝3/18頃、燃料上頭露出4/15頃。

福島第二・第1号機

主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温停止中、水位は制御範囲内で安定、外部電源は受電有 ・圧力容器内に燃料は存在 ・原子炉格納容器内での冷却材漏洩なし ・圧力抑制室の平均水温は100°C未満を維持
圧力容器内水位	・非常用補機冷却材のポンプの電源に故障が認められたことから、電源を交換し、3月15日午後4時25分、当該ポンプ及び残留熱除去系(B)を再起動。

福島第二・第2号機

主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温停止中、水位は制御範囲内で安定、外部電源は受電有 ・圧力容器内に燃料は存在 ・原子炉格納容器内での冷却材漏洩なし ・圧力抑制室の平均水温は100°C未満を維持
圧力容器内水位	

福島第二・第3号機

主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温停止中、水位は制御範囲内で安定、外部電源は受電有 ・圧力容器内に燃料は存在 ・原子炉格納容器内での冷却材漏洩なし ・圧力抑制室の平均水温は100°C未満を維持
圧力容器内水位	

福島第二・第4号機

主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温停止中、水位は制御範囲内で安定、外部電源は受電有 ・圧力容器内に燃料は存在 ・原子炉格納容器内での冷却材漏洩なし
圧力容器内水位	・非常用補機冷却系のポンプ出口圧力が低下したことから、3月15日午後8時5分、残留熱除去系(B)を調査のため停止。ポンプ出口の電源に故障が認められたことから、電源を交換し、同日9時25分、当該ポンプ及び残留熱除去系(B)を再起動。

3月17日

<p>1. 他の電力会社、メーカーによる支援体制</p>	<p>○中部電力、関西電力その他電気事業者、日立・東芝等プラントメーカーなどによる支援体制整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電力会社から、約250名の協力要員を確保。福島第一・第二発電所の作業員の除染及び運搬、周辺の放射線量のモニタリング作業に配置。 ・東芝は本日福島第一原子力発電所に40名の増員を派遣(合計60名)。福島第一発電所5号機、6号機の冷却機能の完全復旧に向けた作業に従事。 ・日立は大震災により茨城の日立事業所が大きな被害を受ける中、原子力事業部は、直ちに検討本部を立ち上げ、現地に50名を派遣。福島第一発電所1～4号機向けの外部電源確保作業に従事。
<p>2. 事故拡大防止措置の実施</p>	<p>◎事故拡大防止措置の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第一・第5号 ○第一・第6号 ○第一・共用プール ○第二・第1号 ○第二・第2号 ○第二・第3号 ○第二・第4号 	<ul style="list-style-type: none"> ① 福島第一発電所 <ul style="list-style-type: none"> ・ 5、6号機の海水系冷却仮設ポンプ設置による除熱機能回復と外部電源復旧 ・ 使用済核燃料共用プールの健全性確保 ・ 福島第一3号機ヘリ及び地上からの放水、続いて4号機へ ・ 福島第一原子力発電所1～4号機への外部電源復旧 ・ 福島第一1～3号機炉心への注水継続 ② 福島第二発電所 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海水系冷却系統の完全復旧 ・ 外部電源の安定化

左 共有 ← EKI 広報班

経済産業省

番号 182038

プレス会見概要

日時：平成23年3月18日（金）17:55～18:50

場所：保安院第4特別会議室

対応：西山審議官 他

1) → 幹 2F, 1A

(説明)

<INES>

- ・本日17:49、原子力事故の国際尺度（INES：International Nuclear Event Scale）レベル4から5に引き上げた旨IAEAに登録した。
- ・炉心の燃料が損傷していると評価されたことからレベル4としていた。
- ・しかしモニタリングデータ等から詳細な評価を行ったことから、炉心3%損傷、所外に放射性物質が放出されているという尺度で5とした。
- ・今後も事態を踏まえて随時見直す。
- ・若干補足的な説明をすると、福島事故は当初冷却機能故障ということでレベル3 3/12夕刻に燃料の損傷でレベル4、その後事業者の報告も踏まえ、各号機とも炉心温度、水位等の変動が大きく、炉心関連パラメーターが一応安定してきたため、これまでの線量、測定値を踏まえて評価した。炉心の燃料の重大な（3%以上）損傷が予測されるとして、引き続き暫定評価値であるがレベル5にした。現在必死で対応中だが、今後の展開を踏まえて随時見直しをする。

<注水活動>

- ・14:00前から、自衛隊による、1F3への放水が開始された。14:38 6台目放水終了した。その後米軍から借りて東電の方が運転する放水車14:48終了。
- ・14:45 東京消防庁緊急消防援助隊139名が福島県Jビレッジ15:10から15:25三隊に分かれて出発。16:251台目到着。

<電源復旧>

- ・1、2号機 特に2号機は建屋が残っており外部からの水の注入を難しくしているため、2号機の電源復旧を最優先で実施。1号機、2号機それぞれにいく。実線は作業が終了している。点線はこれから直そうとしている。現在所内の分電盤まで来ている。19日午前中に内部所内回路までくる。内部所内回路から発電機は18日中に行う。
- ・本来の発電所の供給ルート鉄塔等倒れているので迂回しながら、こちらは本日16:00までに完了している。3、4号機分電盤20日完了予定。
- ・5、6号機はよのもり線という送電線を使って今後回復したい。
- ・超高压線から迂回して事務本館の配電するところにつなぎ、1、2号機に電気を引き込む。
- ・そのほか1Fの状況分かりやすくデータをまとめたものを作成した。

(質疑)

Q:この電源が1, 2号機まで届くのはいつ頃か。その後1, 2号機作動の確認が行われ、水の注入冷却が行われるのは早くてどれくらいなのか。

A:19日までにはつなぐことができる。その後の作業は通電の手順等考えながらやらないといけないので、まだ申し上げられない。

Q:一両日なのか、一週間なのか、19日も午前中なのか午後なのか。

A:19日は午前中。点検は可及的速やかにやってもらいたい、ここでは見通しを述べるのは控えたい。

Q:1号機の水位マイナス1700だったのだが、ダウンスケール出てきたところ、どう解釈するか。

A:1号機の計器には信頼性疑うと思っており、その関係、電源がつながっていない。

Q:実際ダウンスケールにはなっていないとみているか。

A:海水が注入され安定しているので水が入っていないとは思わない。

Q:現段階で放水はちゃんと届いているのか、その効果はどう見ているのか。

A:非常に関係者の努力により、所期の目的はやっていただいていると思う。しかし、燃料済みプールを水で満たすところまでいったかはもう少しかないとわからない。

Q:MPの数値、1F事務本館北 新しい値は数値が大きくなってきている。注水活動に伴い場所を移動しているというが、上昇理由は何か。

A:炉に近い箇所。上がったたり下がったりしており、なかなかわからない。

Q:放水することにより、逆に一時的に上がる可能性はありうるのか。放水中は電源工事はやらないと言っていたが、放水により線量が上がるのを防ぐためなのか。

A:モニタリングたくさんできないので、断定的に申し上げられない。

放水は、原子力発電所では通常予定していない、よって、想定外のトラブル起こる可能性があるので、退避願うもの。

Q:放水による一時的冷却は重要だと思うが、電源をつなぐ作業が遅延するマイナスもあると思う。昨日東電で話を聞いたが、昨日のうちに電源のつなぎ込みできると言っていたが、放水のあとになった。放水は、電源工事を遅らせてでもする必要のあるものなのか。

A:電気はなるべく早くあるべきだ、と思うが、冷却がどれくらいで実現するのか、時間的な感覚としては、冷却急ぐ。

Q:暫定評価につき、今回はあくまで暫定評価ということか。この暫定評価は、あくまで原子力安全保安院の評価ということか。IAEAが暫定評価したということではないということか。

A:日本国内はこの評価で調整されている。

Q:海外の機関が評価するということはあるのか。

A:各国とも自国で権威ある評価をして登録することになる。他国が行うことはない。

Q:現状、福島県から他県へ避難する者増えている。30km屋内退避の範囲の変更はある

のか。30km 圏内外でも避難している。西山さん御自身が家族と 30km 圏内に行くことは可能か。

A:30km 圏内というのは余裕をもって設定したもので、変更するつもりはない。私個人としては、実際にやるかどうかはともかくとしてその場に行くことには抵抗感ない。

Q:東海地震が差し迫って起こることが指摘されている。浜岡原発をいったんは緊急停止することを考えていないのか。

A:これまでの耐震指針に基づいて作られた福島第 1 発電所が、意識されなかった津波で被害を受けたというのはよく考えないといけない。この点については、難しい問題ではあるが、私としては明らかなことをいうのは難しい。考えなければいけない。

Q:政府内で討議しなければならない。官房長官会見ではあらゆることを検討するとおっしゃっていた。

A:緊急停止するかについてはいろいろなことを考えなければならないので軽々に緊急停止するとは言えない。国として考えなければならない。

Q:政府で議論されているか

A:政府の中で正式な機関で議論はされていないが、検討は始まっている。

Q:関西電力からの供給等総合的な対策で浜岡の電力不足を補えるのではないか。

A:電力の受給については我々の専門外なので、コメントを控えたい。

Q:IAEA 天野事務局長独自に視察したいということだが、IAEA とはどう話をしているか。

A:天野事務局長が専門家を連れて来日している。独自にデータを取られることは、透明性の観点から協力したい。計測や放射性の評価の専門家にはサポートぜひいただきたい。来日は重要な機会であり、IAEA との連携を強化したい。

Q:退避範囲について、現在ありうべきことを考えて設定しているので情勢の変化なければ変更の必要ないと言っていたが、現在ありうべきことを想定しても、変更の必要ないということでしょうか。

A:ありうべき最悪の事態踏まえてこのように判断している

Q:ありうべき最悪の事態とは何か。

A:資料を探すので、先に他の質問を。

Q:電源が通った後の ECCS 動けば次のアクションは何になるのか、あるいは ECCS が動かなければどうするのか。

A:私の理解は、電源が通れば、さまざまなポンプを駆使して、あるいは仮設のポンプを導入して冷却機能を回復することを試みることだと思う。

Q:それができない場合どうするのか。

A:外部からポンプを持ってくるのは有効だと思う。

Q:最終的に炉心はどう処分するのか。

A:冷却することがまずは重要で、その後はまた別の検討。

Q:冷却できたというのはどう判断するのか。

A:電気系統が回復すればなんらかの方法がある。

Q:炉心の中に設置するのか。

A:炉心の中は難しいが、別の方法を何らか検討する。

Q:3/14にレベル4としたのを5にしたのは、1Fの1、2、3号機についての評価なのか。

4号機の評価は今回初めて出したということか。

A:レベル4は当初は1F1号機のみ。今回は1、2、3号機について。

Q:4号機と2Fについては今回初めてか。

A:1F4号機、2F1、2、4号機は今回初めて登録。

Q:電源のつなぎ込みの作業に関連して、ポンプモーター地震により損傷している場合、電源が通っても稼働しないが、どうするのか。東電にも同じことを聞いた。モンスターポンプを持ってくるしかないが、発注しているのか。東電はまだだと言っていた。予測して早く発注しないといけないのではないか。

A:おっしゃるとおりで、いくつかポンプは調達したと聞いたと思うが、確認する。

Q:今確認できるのか、次の会見で確認できるのか。

A:近々確認したい。

Q:INES評価について、レベル4は1号機のみ、登録をしたのか。それ以外の号機は初めてか。

A:そのとおり。

Q:2号機のサブプレッションチェンバーについて見解いかん。

A:爆発音がして損傷の可能性があるという点から状況は変わっていない。

Q:仮設のポンプは準備していると再三準備していると言っているが、ポンプもいざ開くと5台しか準備していない。なぜそういうことをきちんと確認しないのか。

A:用意しているということは確認している。

Q:何台あるかというのをなぜ確認しないのかと聞いている。

A:そのとおりであり確認したい。

Q:1号機所内電源復旧作業について、電源を配分するところにつなぐと言っていたが、これで2号機につなぐ作業が終了するということでのよいのか。

A:外部電源から1号機、2号機に接続する。

Q:建屋の中に電源を持ち込むということは、引き込む作業が終わるということか。

A:そのとおり。

「最悪の事態」に関する点は、手元に資料がないため、次回に回答させてほしい。

以上。

地震被害情報 (第31報)
(3月18日22時00分現在)

原子力安全・保安院が現時点で把握している東京電力(株)福島第一原子力発電所、福島第二原子力発電所、東北電力㈱女川原子力発電所、日本原子力発電(株)東海第二、電気、ガス、熱供給、コンビナート稼働の状況は、以下のとおりです。

前回からの変更点は以下のとおり。

- 1. 原子力発電所関係
 - 福島第一原子力発電所

【放水関係】

- ・東京消防庁ハイパーレスキュー隊、放水作業準備のため正門に集結し、入構を開始。(18日 23:30現在)

【電源復旧】

- ・各号機への外部電源について検討開始。(18日 23:00現在)
 - [1, 2号機]
 - 3/19までに外部電源を確保すべく配電盤、ケーブル布設・接続工事を予定。
 - [2号機]
 - 外部送電線から予備電源変電設備までの受電を完了し、そこから負荷側へのケーブル敷設を実施中。(18日 22:00現在)
 - [3, 4, 5, 6号機]
 - 3/20までに外部電源を確保すべく配電盤、ケーブル布設・接続工事を予定。

- 2. 産業保安関係
 - 別紙参照

- 3. 原子力安全・保安院等の対応

3月18日

(15:55)

原子炉等規制法第62条の3に基づき、東京電力(株)福島第一原子力発電所第1・2・3・4号機における事故故障等(原子炉建屋内の放射性物質の非管理区域への漏えい)の報告を受理

(16:48)

原子炉等規制法第62条の3に基づき、日本原子力発電(株)東海第二発電所における事故故障等(非常用ディーゼル発電機2C海水

左

ポンプ用電動機の故障)の報告を受理

(別紙)

1. 発電所の運転状況【自動停止号機数：10基】

○東京電力(株)福島第一原子力発電所(福島県双葉郡大熊町及び双葉町)

(1) 運転状況

- 1号機(40万kW)(自動停止)
- 2号機(78万4千kW)(自動停止)
- 3号機(78万4千kW)(自動停止)
- 4号機(78万4千kW)(定検により停止中)
- 5号機(78万4千kW)(定検により停止中)
- 6号機(110万kW)(定検により停止中)

(2) モニタリングの状況

別紙参照

(3) 主なプラントパラメーター(18日22:00現在)

	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機
原子炉圧力*1 [MPa]	0.295(A) 0.262(B)	0.096(A) 0.081(B)	0.085(A) 0.117(B)	-	1.797	0.674
原子炉格納容器圧力(D/W) [kPa]	180**	140	160	-	-	-
原子炉水位*2 [Mm]	-1750(A) -1800(B)	-1400(A) 不明(B)	-1900(A) -2300(B)	-	1922	2364
原子炉格納容器内S/C水温 [°C]	-	-	-	-	-	-
原子炉格納容器内S/O圧力 [kPa]	160	D/S	D/S	-	-	-
使用済燃料プール水温 [°C]	-	-	-	84	67.6	65
備考	3/18 21:10 現在の値	3/18 21:10 現在の値	3/18 21:05 現在の値	3/14 04:08 現在の値	3/18 21:00 現在の値	3/18 21:00 現在の値

*1: 絶対圧に換算

*2: 燃料頂部からの数値

*3: 復旧

- ・3号機の海水注入を再開(14日 3:20)
- ・3号機の格納容器圧力が異常上昇(14日 7:44)。原子力災害対策特別措置法第15条事象である旨、受信(14日 7:52)。
- ・3号機で1号機と同様に原子炉建屋付近で爆発(14日 11:01)
- ・3号機から白い湯気のような煙が発生(16日 8:30頃)
- ・3号機の格納容器が破損しているおそれがあるため、中央制御室(共用)から作業員待遣(16日 10:45)。その後、作業員は中央制御室に復帰し、注水作業再開(16日 11:30)
- ・自衛隊のヘリにより3号機の海水の投下を4回実施(17日 9:48、9:52、9:58、10:01)
- ・機動隊が地上放水のため現場到着(17日 16:10)
- ・17日 19:35から、自衛隊により放水。
- ・警察庁機動隊による地上放水(17日 19:05~19:13)
- ・自衛隊消防車5台が地上放水を実施(17日)
- (各放水開始時刻: 17日 19:36、19:45、19:53、20:00、20:07)
- ・自衛隊消防車6台(6t放水/台)が地上放水を実施(18日 14時前~14:38)
- ・米軍消防車1台が地上放水を実施(18日 14:45終了)
- ・原子炉圧力容器へ海水注入中。白煙吐出継続(18日 22:00現在)
- ・ハイパーレスキュー(30台)が地上放水のため現場に入構(18日 23:30)。

<4号機関係>

- ・4号機のオペレーションエリアの壁が一部破損していることを確認(15日 6:14)。
- ・4号機で火災発生。(15日 9:38) 事業者によると、自然に火が消えていることを確認(15日 11:00頃)
- ・4号機の使用済燃料貯蔵プール水温度が上昇(3月14日 4:08時点で84℃)
- ・4号機で火災が発生(16日 6:45頃)。事業者によると、現場での火は確認できず(16日 6:15頃)。
- ・原子炉圧力容器のシールド工事中のため、原子炉圧力容器内に燃料はなし。白煙吐出継続(18日 22:00現在)

<5号機、6号機関係>

- ・6号機の非常用 D/G (1台)は運転可能。これにより5、6号機に電力供給中。MUWC(復水補給水系)を用いて原子炉圧力容器及び使用済燃料プールへ注水をしている。

<使用済燃料共用プール>

- ・18日 6:00過ぎ、プールはほぼ満水であることを確認。
- ・18日 11時19分時点でのプール水温度は55℃。

- (4) その他異常に関する報告
- ・原子力災害対策特別措置法第10条通報(11日 15:42)
 - ・同第15条(原子炉冷却機能喪失)通報(福島第一原子力発電所1、2号機)(11日 16:36)
 - ・東北電力の送電線から受電するケーブルを敷設。放水作業後に2号機へ接続予定(17日 17:30)。1~4号外部電源の復旧等に係る作業内容(東北電力(株)送電系統からの受電、自社送電所よりルート変更を介しての受電)を確認中(18日 06:30現在)

<1号機関係>

- ・1号機の原子炉圧力容器内に消火系ラインを用いて海水注入開始(13日 11:55)
- 14日 01:10一時中断
- ・1号機で爆発音。(12日 15:36)
- ・原子炉圧力容器へ海水注入中。(18日 22:00現在)

<2号機関係>

- ・2号機は注水機能を維持(13日 14:00)
- ・3号機の建屋の腐蝕に伴い、原子炉建屋ブローアウトパネル開放(14日 11時過ぎ)
- ・2号機の原子炉圧力容器の水位が低下傾向(14日 13:18)。原子力災害対策特別措置法第15条事象(原子炉冷却機能喪失)である旨、受信(14日 13:49)
- ・2号機の原子炉圧力容器内に消火系ラインを用いて海水注入準備(14日 19:20)
- ・東京電力によると、2号機の炉心損傷評価を実施し、「5%以下」と判断。(14日 22:14)

- ・2号機の原子炉圧力容器の水位が低下傾向(14日 22:50)
- ・2号機で爆発音するとともに、サブレーションプール(圧力抑制室)の圧力低下(15日 6:10)。同室に異常が発生したおそれ。(15日 6:20頃)
- ・外部送電線から予備電源変電設備までの受電を完了し、そこから負荷側へのケーブル敷設を実施中。(18日 22:00現在)
- ・原子炉圧力容器へ海水注入中。(18日 22:00現在)
- ・原子炉建屋ブローアウトパネルから白煙吐出継続。(18日 22:00現在)

<3号機関係>

- ・3号機の原子炉圧力容器内に消火系ラインにて真水注入開始(13日 11:55)
- ・3号機の原子炉圧力容器内に消火系ラインを用いて海水注入開始(13日 19:12)
- ・3号機及び1号機の注入をくみ上げ箇所海水が少なくなったため停止。(14日 1:10)

○東京電力(株)福島第二原子力発電所 (福島県双葉郡楢葉町及び富岡町)

(1) 運転状況

- 1号機 (110万kW) (自動停止、14日 17:00 冷温停止)
- 2号機 (110万kW) (自動停止) 14日 18:00 冷温停止)
- 3号機 (110万kW) (自動停止、12日 12:15 冷温停止)
- 4号機 (110万kW) (自動停止、15日 7:15 冷温停止)

(2) モニタリングポスト等の指示値

別添参照

(3) 主なプラントパラメーター (18日 21:00 現在)

	単位	1号機	2号機	3号機	4号機
原子炉圧力*1	MPa	0.18	0.11	0.13	0.15
原子炉水温	℃	39.7	35.8	27.6	33.2
原子炉水位*2	mm	10596	9996	7501	9026
原子炉格納容器内 貯り水の温度	℃	29	25	42	32
原子炉格納容器内 貯り水の圧力	kPa (abs)	143	116	126	119
備考		冷温停止中	冷温停止中	冷温停止中	冷温停止中

* 1：絶対圧に換算

* 2：燃料頂部からの数値

(4) その他異常等に関する報告

- ・ 1号機にて原子力災害対策特別措置法第10条通報 (11日 18:08)
- ・ 1、2、4号機にて同法第10条通報 (11日 18:38)
- ・ 1号機にて原子力災害対策特別措置法第15条事象 (圧力抑制機能喪失) 発生 (12日 5:22)
- ・ 2号機にて原子力災害対策特別措置法第15条事象 (圧力抑制機能喪失) 発生 (12日 5:32)
- ・ 4号機にて原子力災害対策特別措置法第15条事象 (圧力抑制機能喪失) 発生 (12日 6:07)

○東北電力(株)女川原子力発電所 (宮城県牡鹿郡女川町、石巻市)

(1) 運転状況

- 1号機 (52万4千kW) (自動停止、12日 0:58 冷温停止)
- 2号機 (52万5千kW) (自動停止、地震時点で冷温停止)
- 3号機 (52万5千kW) (自動停止、12日 1:17 冷温停止)

(2) モニタリングポスト等の指示値

MP 2.付近 (敷地最北敷地境界) 約 6,500mGy/h (14日 19:00)

→約 5400 nGy/h (15日 19:00)

(3) その他異常に関する報告

- ・ タービン建屋地下1階の発煙は消火確認 (11日 22:56)
- ・ 原子力災害対策特別措置法第10条通報 (13日 13:09)

2 産業保安

○電気 3月18日 22:00 現在

- ・ 東京電力 (3月18日 22:00 現在)
 - 停電戸数: 約3千戸 (延べ停電戸数 約405万戸)
 - 停電地域: 茨城県 潮来市、北茨城市、大洗町など (約3千戸)
- ・ 東北電力 (3月18日 21:00 現在)
 - 停電戸数: 約29万戸 (延べ停電戸数 約486万戸)
 - 停電地域: 青森県 三八の一部地域 (約6百戸)
 - 岩手県 一部地域 (約4万5千戸)
 - 宮城県 ほぼ全域 (約20万4千戸)
 - 福島県 一部地域 (約3万8千戸)
- ・ 北海道電力
 - 停電は12日 14:00までに復旧済 (延べ停電戸数 約3千戸)
- ・ 中部電力
 - 停電 (長野県) は12日 17:11に復旧済 (延べ停電戸数 約4百戸)

○一般ガス (3月18日 22:00 現在)

- 死亡事故: 地震との関係も含め原因詳細調査中。
- ・ 盛岡ガス (盛岡市) 死者1名、負傷者10名
 - 14日 8:00 予パートの地下での爆発
- ・ 東部ガス (いわき市) 死者1名
 - 12日 11:30 一般住宅での漏えいガスに着火

北海道、山形県、秋田県においては、供給停止の報告はない、各社の供給停止状況は以下の通り。

- ・ 東京ガス (日立市) 13戸供給停止
- ・ 仙台市営ガス 358,781戸供給停止
- ・ 塩釜ガス (塩釜市等) 12,382戸供給停止
- ・ 福島ガス (福島市) 120戸供給停止
- ・ 東部ガス (土浦市) 5,071戸供給停止 (水戸市) 209戸供給停止
- ・ 釜石ガス (釜石市) 7,000戸供給停止
- ・ 常陸共同ガス (いわき市) 10,553戸供給停止
- ・ 京葉ガス (浦安市) 7,341戸供給停止
- ・ 東北ガス (白河市) 290戸供給停止
- ・ 常磐新市営ガス (いわき市) 518戸供給停止
- ・ 気仙沼市営ガス (気仙沼市) 2,800戸
- ・ 石巻ガス (石巻市) 14,771戸

・JX日鉱日石エネルギー(株)仙台製油所(宮城県仙台市)
出荷設備エリアで爆発、火災が発生。3月15日午後鎮火。

OLPガス

死亡事故：地震との関係も含め原因詳細調査中

・福島県いわき市 死者1名

13日午前中 共同住宅でガス爆発

3 原子力安全・保安院等の対応

[3月11日]

14:46 地震発生と同時に原子力安全・保安院に災害対策本部設置
15:42 福島第一原子力発電所にて原子力災害対策特別措置法第10条通報

16:36 福島第一原子力発電所1、2号機にて事業者が同法第15条事故(原子炉冷却機能喪失)発生判断(16:45通報)

18:08 福島第二原子力発電所1号機にて原子力災害対策特別措置法第10条通報

18:33 福島第二原子力発電所1、2、4号機にて原子力災害対策特別措置法第10条通報

19:03 緊急事態宣言(政府原子力災害対策本部及び同現地対策本部設置)

20:50 福島県対策本部は、福島第一原子力発電所1号機の半径2kmの住人に避難指示を出した。(2km以内の住人は1864人)

21:23 内閣総理大臣より、福島県知事、大熊町長及び双葉町長に対し、東京電力(株)福島第一原子力発電所で発生した事故に関し、原子力災害対策特別措置法第15条第3項の規定に基づき指示を出した。

・福島第一原子力発電所1号機から半径3km圏内の住民に対する避難指示。
・福島第一原子力発電所1号機から半径10km圏内の住民に対する屋内待避指示。

24:00 池田経済産業副大臣現地対策本部到着

[3月12日]

5:22 福島第二原子力発電所1号機にて事業者が原子力災害対策特別措置法第15条事故(圧力抑制機能喪失)発生判断(6:27通報)

5:32 福島第二原子力発電所2号機にて事業者が原子力災害対策特別措置法第15条事故(圧力抑制機能喪失)発生判断(6:27通報)

5:44 総理指示により福島第一原子力発電所の10km圏内に避難指示

6:07 福島第二原子力発電所4号機にて原子力災害対策特別措置法第15条事故(圧力抑制機能喪失)発生

6:50 原子炉等規制法第64条第3項の規定に基づき、福島第一原子力発電所第1号機及び第2号機に設置された原子炉格納容器内の圧

○簡易ガス(3月18日18:00現在)

各社の供給停止状況は以下の通り。

- ・宮城ガス(塩竈市)651戸供給停止
(仙台市)2,058戸供給停止
(黒川郡富谷町)2,318戸供給停止
- ・岩沼市農業協同組合(岩沼市)763戸供給停止
- ・橋本産業(東松島市)80戸供給停止
- ・福陽ガス(須賀川市)81戸供給停止
- ・仙台市ガス局(名取市)1,225戸供給停止
(仙台市)114戸供給停止
(岩沼市)342戸供給停止
(黒川郡富谷町)1,855戸供給停止
- ・カメイ(亶理郡山元町)189戸供給停止
(白河市)596戸供給停止
(須賀川市)783戸供給停止
(いわき市)128戸供給停止
(宮古市)197戸供給停止
- ・共同ガス(須賀川市)163戸供給停止
- ・東北ガス(白河市)360戸供給停止
- ・いわきガス(いわき市)594戸供給停止
- ・相馬ガス(相馬市)143戸供給停止
- ・相馬市ガス(相馬市)100戸供給停止
- ・勝田ガス事業協同組合(ひたちなか市)647戸供給停止
- ・帝石プロパンガス(高萩市)747戸供給停止
- ・倉島商事(福島市)248戸供給停止
- ・若松ガス(福島市)1,081戸供給停止
- ・アイソン(安達郡本宮町)489戸供給停止
- ・トーホクガス(匝瑳市)130戸供給停止
- ・総武ガス(匝瑳市)80戸供給停止
- ・三重商会(大船渡市)81戸供給停止(いわ)
- ・名取岩沼農業協同組合(岩沼市)586戸供給停止

○熱供給(3月18日18:00現在)

・小名浜配湯(いわき市小名浜)供給停止

○コンピナート(3月18日18:00現在)

- ・コスモ石油千葉製油所(千葉県市原市)
- ・LPG貯槽の支柱が折れ、破損。ガス漏れ火災。
重傷者1名、軽傷4名